

第3回函館市観光振興財源検討委員会 議事録（概要）

■ 開催日時

令和元年9月25日（水）18：00から19：15まで

■ 開催場所

市役所本庁舎8階第1会議室

■ 出席委員・オブザーバー

奥平委員長，大橋副委員長，酒井委員，寺井委員，布谷委員，渡部委員
金道オブザーバー，遠藤オブザーバー

■ 欠席委員

高地委員，辻委員

■ 傍聴等

北海道新聞社，函館新聞社

■ 議題

- (1) 第2回検討委員会議事録の承認について
- (2) 観光振興に関する財源確保策の検討について

【会議の概要等】

1 開会

2 第2回検討委員会
議事録の承認につ
いて

奥平委員長

第2回検討委員会の議事録については，配付のとおりである。承認いただきたいが，いかがか。

(委員同意)

3 資料1 第2回函
館市観光振興財源検
討委員会議事概要

奥平委員長

前回の確認として、観光施策の拡充とその財源確保の必要性については、ナイトタイムエコノミー、インバウンド対策など、取り組むべき施策が、非常に多くあり、イベント開催のための経費など財源確保の必要性があることで意見の統一ができたと思う。観光振興のための財源確保策については、観光に関連する事業者全体でお客様から負担をいただく方法はないかというご意見もあり、宿泊税を含む観光税ということで議論を進めていくということでまとまった。

今回の検討委員会では、もう少し具体的にふさわしい財源確保策について検討を進めていきたい。

資料2、市町村法定外目的税の状況について事務局から説明をお願いします。併せて、法定外目的税として宿泊税に限定せず他の観光にかかる行為・行動についても広く税を徴収するという方法について、事務局の見解も聞かせて欲しい。

4 資料2 市町村法
定外目的税の状況

(配付資料に基づき、事務局から説明)

奥平委員長

本日、欠席している高地委員から事前に意見が出ているので、事務局に代読させる。

高地委員（事務局代読）

観光税の課税方法としては、飲食、施設利用、宿泊等に課税客体を求める方法があるが、課税客体が広く他種目になると課税の公平、簡素、明確さが崩れるため、課税客体を絞り込む必要がある。

宿泊に関しては、観光・娯楽がビジネスと比べ比率が高いこと、市民以外の交流人口が高いこと、市民の理解が得られやすいことから、税を全般的に活用しやすいと考える。

5 観光振興に関する
財源確保策の検討につ
いて

奥平委員長

皆様の意見をお願いします。

大橋副委員長

総額が、ある程度の金額を支払うもので観光税が数%くらいに収まるものなら抵抗感なく支払える。そうすると宿泊税になると思う。ロープウェイだと、利用者数は宿泊者数の1/3くらいなので、宿泊税で200円とするとロープウェイでは600円になる。ロープウェイのような支払金額の小さいところから取るのは抵抗感がある。宿泊税は、全員から取るのではなく免税点を設けたり、修学旅行を免除にするなど、できると思う。徴収義務者の負担を軽減することを考えるべきである。

寺井委員

税の公平性や、徴収手続が繁雑になることを避けることを考えると、宿泊者に一部の受益の負担をしていただく宿泊税という形に落ち着くと思う。

渡部委員

徴収の幅を広げて観光客が行く先々で、税を徴収するというのは、観光客に良いイメージを与えず、リピーターの減少に繋がる。新たな財源は、他地域でも導入実績があり、観光客や事業者が理解しやすいものがあると思う。

遠藤オブザーバー

宿泊税については、反対してきたが、北海道の動きもあるので、函館市にイニシアチブを取ってもらい函館市のために使われる財源ができるだけ多く確保されるようにしてほしい。

金道オブザーバー

組合の役員の間では、反対意見が多く出ている。宿泊税の徴収を理解してくれないお客さんが多く出てくるであろうことは、理解してほしい。

	<p>宿泊税になるのであれば、宿泊事業者の要望を聞いて、制度設計に反映して欲しい。</p>
布谷委員	<p>観光目的税を各観光施設で取るのは、消費税との棲み分けが曖昧になる。</p> <p>観光振興ということを考えると、宿泊施設で徴収してもらうのが一番いいと思う。</p> <p>導入にあたっては、宿泊施設の意見を聞きながら、どういう形であれば納税してもらえるか、詰めていくことが今後の課題だと思う。</p>
酒井委員	<p>函館山の夜景が暗くなっていると感じる。専門家の意見を聞きながら、夜景の整備事業を行い、それに宿泊税を充てて欲しい。</p> <p>制度設計は、入湯税の減額など、ホテル・旅館の負担にならないように検討して欲しい。</p>
奥平委員長	<p>オブザーバーからも話が出ていたが、北海道の動きに注意する必要がある。</p> <p>入湯税の減額については、制度上、可能だと思う。</p> <p>宿泊事業者以外に対象を大きく広げて、いろいろなところから徴収するのはイメージが良くないと思う。</p> <p>いろいろな意見があるなかで、反対意見は利害が対立している部分であるから、宿泊事業者の負担を軽減するような方法を委員会で検討するなど、できる限りその部分を取り除き、宿泊税という形で進めていくことが、一番得策であると思う。</p> <p>今後、提言をまとめるにあたり、宿泊税を導入した場合の附帯意見として、どのようなものが考えられるか、を聞いていきたい。</p>
酒井委員	<p>宿泊税で、観光施設の整備などをやるべきだと思う。</p>
布谷委員	<p>定額制・定率制それぞれメリット・デメリットがあるので、細かいところを研究しながら選定していくことが必要だと思う。</p>

金道オブザーバー

北海道と函館市の両方で宿泊税を課税することになって、そのことにより税額が膨らまないようにして欲しい。

今後、函館市のホテル・旅館の部屋数が大幅に増えるので、函館市の宿泊客数を増やす施策を考えて欲しい。

遠藤オブザーバー

宿泊税については、北海道と調整をしっかりと行って欲しい。

入湯税については、函館ホテル旅館協同組合と函館湯の川温泉旅館協同組合で温泉付きの施設の定数は、あまり差はないので、調整を検討して欲しい。

消費税の増税や、市内の部屋数の総数が増えたことにより個々の宿泊施設では宿泊客数へ影響があり、今後、その部屋数の総数が更に増えることから、函館市の宿泊客数を増やす施策や宿泊事業者の負担にならないような制度を討論して決めていきたい。

渡部委員

新財源については、事業者の皆様がハンデを負うことのないように、入湯税とのバランスなど制度設計をしっかりと詰めて欲しい。

寺井委員

制度設計は、3～5年で見直すことを明確にするべきである。

オーバーツーリズムの問題はあまり騒がれていないが、市民レベルでは、けっこう困っている。消費税の軽減税率の問題として、コンビニで購入し店外で食べることが増えると思うが、コンビニのゴミ箱がなくなっていて町中にゴミが散乱する恐れがある。同様にトイレの問題があつて、この部分には、予算をしっかりとかけていくべきである。

大橋副委員長

他都市で宿泊税を取られたことがあるが、それでリピーターになるならないというようなことはない。宿泊税が何に使われているかわかれば、良いことをしたと思える。

	オブザーバーに、宿泊税の導入にあたり、どの部分が手間になるのか、についてお聞きしたい。
遠藤オブザーバー	手間は、ホテル・旅館で違うと思うが、各部屋で宿泊人数が違ふとルームチャージの金額が同じでも、1人1人の宿泊料は、それぞれの部屋ごとにその部屋の宿泊人数で割って計算する必要があることから、3千円が何人、5千円が何人、などを出すことは大変である。
金道オブザーバー	旅行会社とのやりとりが大変になると思う。
遠藤オブザーバー	定率制は、安いところからも全て取れると思うが、定額制の場合は、ある程度、免税点を作らないと不公平になるのではないか。
金道オブザーバー	京都市、金沢市は、オーバーツーリズムが問題になっていて、住民から批判が出ていることもあり、免税点を作っていないが函館市で同じことをすれば、不協和音が出ると思う。 函館市の民泊は合法と聞いており、他都市と状況が異なっている。
奥平委員長	定額制・定率制については、宿泊事業者の意見を聞いて、附帯意見に記載するべきだと思う。 宿泊税の導入について賛否あるが、宿泊事業者の負担を軽減することを前提に、宿泊税の導入でいくということによろしいか。
	(委員同意)
奥平委員長	定額制・定率制の選択、3～5年毎の制度の見直し、北海道との調整、入湯税の減額、宿泊事業者へのサポート、宿泊税を宿泊者の増加に結びつける施策やオーバーツーリズム対策への充当などを附帯意見に取り込んで提言書にまとめていきたいと思うが、よ

ろしいか。

(委員同意)

奥平委員長

今後は制度設計に向けて情報交換をしていきたい。
次回の会議では、事務局に検討委員会が出た意見を
まとめてもらって、それを見ながら検討していきたい
が、よろしいか。

(委員同意)

税務室長

前回、委員長から話があったパブリックコメントと
意見交換会については、委員長と事務局で整理して
実施する旨、前回、委員に確認しているので、その
とおりに進めていきたいと思う。